

平成20年度の鳥取県立博物館

1 総 論

県民へのサービス向上に向けて、博物館の開館時間を試行的に4月～10月までの間、現在の午前9時から午後5時までを、2時間延長して午前9時から午後7時まで実施し、その期間に行ったアンケート等の結果を踏まえて平成21年度以降から開館時間の延長を本格実施することとした。

企画展「前田寛治のパリ」では大阪市と実行委員会を組織し、財団法人地域創造からの補助金を活用して展覧会を開催するとともに、関西圏での作品周知を行った。

博物館と学校との連携を強めるため、博物館のホームページに「学校のための博物館利用ガイド」を作成し、博物館資料を授業に活用してもらうための方法を情報提供した。

韓国国立春川博物館からの要請を受けて、これまでの書籍等の交流から人的な相互交流も正式に行うこととした。

(1) 組織

博物館が実施していた鳥取県美術展覧会開催事業を文化政策課へ移管して文化芸術事業の所管課を一本化するとともに美術振興課の学芸員1名を配置換えとした。

(2) 資料の収集・調査研究

鳥類や哺乳類などの剥製や嘉永4年に制定された鳥取藩の歴史資料など資料的価値の高いもの数点の寄贈を受けた。

また、鳥取県の砂浜海岸におけるスナガニや鳥取藩池田家累代の菩提寺に残る天井画などに関する調査研究を実施し、論文、資料紹介などを発表した。

さらに、県内の歴史・民俗事象に関する最新の成果・知見を紹介するための調査を実施した。

(3) 展示

企画展6回〔自然系1回、人文系2回（うち1回は19年度からの継続）美術系3回〕を開催し、博物館全体の事業に約10万人の来館者があった。特に夏休み期間中に開催した「ようこそ恐竜ラボへ!」には約2万2千人もの来館者があった。

秋に開催した近現代美術の普及を目指す企画展「シュルレアリスムとその周辺」では、来館者に対して行ったアンケート調査で、9割以上の方から「大変満足・満足」との回答があり高い評価を得た。この企画展には学生の来館者が多く現代美術に関心の高いことを伺わせた。

また、企画展「はじまりの物語－縁起絵巻に描かれた古のとっとり－」では、国指定重要文化財7点、県指定文化財9点など多くの資料を展示した。特に、平安時代に鳥取から京都、岐阜へ飛び去ったとされる2体の薬師如来像（いずれも重要文化財）の県内での公開は話題となり、関西圏や関係団体などからも多くの来館者があり好評であった。

山陰海岸学習館では生態水槽等のリニューアルに合わせて、「イカ」をテーマに国立科学博物館と連携し、「科博コラボ・ミュージアム in 鳥取」を開催したことで、知名度のアップにつながり来館者が大幅に増加した。

(4) 教育普及

県民の生涯学習を支援するため、館内外での講演会、ワークショップ、観察会などを開催した。巡回展、移動博物館・美術館、出張美術教室は県下32会場で、普及講座や講演会は年間を通して117回開催し、延べ3,679人の参加があった。

中でも美術の普及講座を「毎週土曜日はアートの日！」と題して、毎週土曜日に美術に関する事業を実施し、アートにふれあう機会を充実した。

また、学校との連携を強化するため、博物館のHP中に「学校のための博物館利用ガイド」を制作し、教科書に出てくる博物館所蔵の実物資料等を授業で活用する方法について、ガイドを作成するなど学校へのサポートを行った。

(5) 来館者サービス

ミュージアムショップを運営する鳥取県立博物館資料刊行会を鳥取県立博物館振興会と改名して正式に事業所登録し、民間感覚を生かして取扱商品を増やすとともに、オリジナル商品として橋本興家の版画「風紋と花」をデザインした風呂敷などを新たに製作した。

2 各課の概況

(1) 総務課

- ・庶務係から総務係に組織変更
- ・空調設備改修工事实施（3カ年）2年目
- ・博物館敷地内に駐車スペースを増設するとともに、周辺国施設の駐車場利用について要望
- ・博物館正面ホールに直射日光が入るのを防ぐため、正面ガラスに電動カーテンを設置

(2) 学芸課

●自然担当

- ・企画展の開催：「ようこそ恐竜ラボへ！～化石の謎をときあかす～」
- ・石坂元貝類標本整理事業（2カ年）2年目

●人文担当

- ・企画展の開催：「はじまりの物語－縁起絵巻に描かれた古（いにしえ）のとっとり－」
- ・人文資料修復事業
- ・歴史民俗常設展示室改善充実事業
- ・鳥取県の歴史・民俗事象調査事業
- ・藩政資料整備事業（14カ年）4年目
- ・遠山正瑛資料収蔵調査事業（3カ年）3年目
- ・第9次郷土視覚定点資料収集事業

●普及担当

- ・各種広報活動の実施
- ・移動博物館、移動美術館の募集及び調整
- ・学校教育支援事業の開催
- ・ニュースレター「MUSEUM PRESS 鳥取県立博物館ニュース」No.6, 7の発行
- ・博物館のHP中に「学校のための博物館利用ガイド」を制作

●山陰海岸学習館

- ・海洋生物の生態展示が可能な水槽の改修整備
- ・野外観察会や自然講座などの普及事業の開催
- ・「科博コラボ・ミュージアム in 鳥取」の開催：「知られざるイカのひみつ！」

(3) 美術振興課

- ・企画展の開催：「前田寛治のパリ」

「シュルレアリスムとその周辺」

共同企画・郷土作家展「海の刻 古市義二・岸本章」

企画展「前田寛治のパリ」は、大阪市立近代美術館建設準備室と前田寛治のパリ展実行委員会を組織し共同企画。鳥取県立博物館での展覧会開催後、大阪市立近代美術館（仮称）心齋橋展示室を会場に平成20年6月28日から8月30日の会期で巡回展示。

共同企画・郷土作家展を前年度と同様、鳥取県立博物館での開催後、米子市美術館、倉吉博物館で巡回展示。

- ・2階近代美術展示室で、常設企画展示「前田直衛展 併設：新収蔵品コーナー」、夏休み企画「手紙ではじまる展覧会」、「歌仙絵」、「抽象美術の世界」を開催。
- ・1階美術展示室で鳥取県を代表する江戸時代から現代までの、近世絵画、日本画、洋画、版画、工芸を年間を通して展示。
- ・初めての試みとして「毎週土曜はアートの日！」（サタデーアートフィーバー）と題し、これまで継続的に行ってきた美術普及活動（ワークショップ、アートセミナー、アートシアター、ギャラリートーク、企画展関連事業等）の回数を増やすとともに新たな活動を加え、年間の毎週土曜日に美術普及活動を充実して開催。